

# 特賞 発明 ガストロロカメラ

## 天然色で胃を撮影

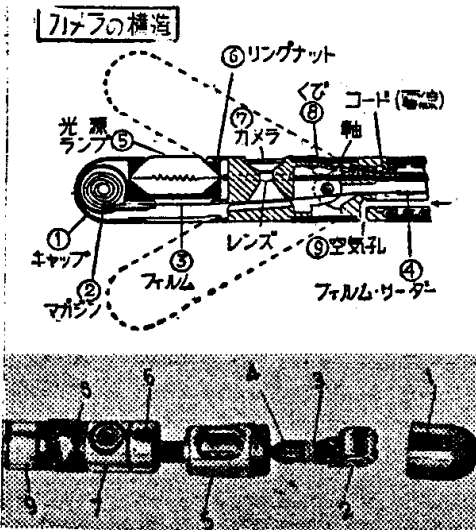
### 胃病百般診断の最新鋭武器

グリップ、胸やけ、胸膈、食欲不振、ハキ気……現代人は多かれ少かれ胃に不安を感じている。その胃の内側を撮影する写真機——ガストロロカメラの優美なものが日本人の手で発明され、いまも二十台近くもついでついで、東大をはじめ主要な大学、病院で大モテ、さらにはスウェーデン、インド、ブラジルにまで輸出されている。来る廿七日

日開かれる発明協会創立五十周年記念式典でも、このガストロロカメラは廿九年博覧会賞三十三種のうちから特に選ばれた特賞五種の二つとして表彰される。

#### 二十四年から研究

発明者はオリンパス写真機の杉浦隆夫氏。深海正治氏、平治達郎氏と元東大分院外科に勤務していた手



治達郎氏(まじ)。人々がまだ胃カメラを買出しに精力を注いでいた廿四年ごろから仕事が始まる。しかも、顕微鏡専門のオリンパスでは、この発明も裏技にかくれての、秘密研究としてスタートする。機械として形をなしたのは廿六年四月ごろである。使用者としてその東大分院外科の協力をうけて、杉浦氏は故院長故員を重ねる。国内特許と同時に米英独仏の特許を申請して、はじめて国外に出張が判つて来た。胃の中を撮影するといふ難題は廿九年一九一五年にすでにあったが、ヨーロッパでは実用化されたものは一つもない。アメリカ

リカでは一九三二年からF・G・バック氏の発明があったが、ガストロロカメラの発明者

リカでは一九三二年からF・G・バック氏の発明があったが、ガストロロカメラの発明者



杉浦隆夫氏



深海正治氏



平治達郎氏

て、ガストロカメラによる胃の研究や診断の報告は、アメリカでもまず無かったといわれています。

ロザン入られたガストロカメラ(右はカメラ部の構造の図)